

がん専門のスペシャリストがチームを組み 退院後の在宅ケアまでを実施

緩和ケア病棟では、患者さんご家族の心身の苦痛を和らげ、その人らしく穏やかに過ごせるよう医師やがん看護専門看護師・がん性疼痛看護認定看護師・リンパドレナージセラピスト・薬剤師・医療ソーシャルワーカーなどがチームを組み、総合的な緩和ケアに取り組んでいます。また、地域の医療機関やかかりつけ医と協力して、退院後の在宅ケアも行っています。さらに、当院内でかかりつけ医が退院前の患者さんの診療ができるなど、開かれた医療体制の構築を推進しています。

より上質なケアを実践するために研修会を毎年開催「泉州緩和ケア研修会」

がん診療連携拠点病院の取り組みとして、緩和ケアの向上を図るため、泉州緩和ケア研修会を毎年開催しております。この緩和ケア研修会を修了した医師には厚生労働省から、医師以外の従事者には大阪府知事からそれぞれ修了証書が交付されます。また各医師会にもご後援をいただき、府医師会の生涯研修にも登録されるので、医師会の先生方も毎年参加しております。2017年の研修会では、医師26名と医療従事者11名が受講し修了されました。

緩和ケア研修会



緩和ケアカンファレンス



特殊浴室



快適・安全・安心な環境を整え副作用を軽減

がん化学療法の一部は、抗がん薬や副作用予防薬の進歩により、家庭で生活しながら通院で行えるようになりました。外来で治療を行うことにより、患者さんの利便性や経済性、生活の質を高めることができます。当院の外来化学療法センターでは、腫瘍内科医をはじめ、がん化学療法看護認定看護師と、がん精通したスタッフが常駐し、抗がん剤やホルモン注射による治療などを行っています。

また、リラックスできる環境整備に努め、より快適に、より安全に、安心して治療を受けていただくように心がけています。

外来化学療法センター



安心と充実の医療体制で女性の健康と 新しい生命の誕生をサポート

産科

当院では、24時間365日、産婦人科医師が常駐し、妊娠中から出産後までトータル管理をしています。妊娠期間中は妊婦健診の各種検査に加え、検査技師による超音波検査、出産直後の赤ちゃんには聴覚検査を実施するなど、母子ともに体調異常の早期発見に努めています。また、産婦人科医、小児科医、助産師を含む看護スタッフ、そして各専門の診療科が協力し、生命の誕生である出産をサポートしています。

婦人科

当院では、がん患者さんに対して、婦人科だけでなく放射線治療科・腫瘍内科・緩和ケア内科などの医師が連携してサポートしています。また、放射線治療設備・PET-CTなどの設備も充実しているため、集学的治療も可能となっています。特に放射線治療設備に関しては、画像誘導放射線治療 (IGRT) が可能となり、照射する精度が向上しました。手術に関しては、経験豊富な婦人科腫瘍専門医が在籍していることにより、開腹・膣式・腹腔鏡下・子宮鏡下といったすべての術式に対応し、十分なインフォームド・コンセントのもと、患者さんにとって最も安全で最適な術式を選択しています。

分娩室



4Dエコー



当院で生まれたお子様



再開をアピールし
泉州地域における
少子化対策の一助に
したい



副院長兼産婦人科部長
出口 昌昭

昨今は、産婦人科医が減少の傾向にあり、その状況を踏まえて当院では今から3年前に産科を再開しました。それまで岸和田市内の妊婦さんたちは市外の医療機関を利用されていることもあり、今後は当院でも出産ができることを積極的にアピールしたいと考えております。

診療科目の特性上、24時間・365日体制で産婦人科医師が常駐し、分娩管理や妊娠中の異常に対応しています。そのため、院外の先生方にもご協力をいただき、体制を整えています。また、婦人科に関しては4年前に再開し、充実した医療設備で患者さんにとって最善の医療を提供しています。

今後はチーム医療を活かして、泉州地域における少子化対策の一助になればと考えています。

周術期の口腔管理や 入院患者の口腔ケアを実践する

2017年に、周術期の口腔管理や入院患者さんの口腔ケアの指導、口腔環境の改善を行う口腔管理センターが発足しました。近年、口腔疾患は、誤嚥性肺炎や糖尿病、心疾患などの全身疾患に影響を与えることが明らかとなり、特に周術期においては、術後の誤嚥性肺炎や創部への口腔細菌の迷入による感染など、様々な合併症を引き起こす可能性が考えられています。当センターでは、手術や抗がん剤治療、放射線治療を行う患者さんに対し、周術期口腔連携パスを利用し、地域の歯科医の先生方と連携して、治療に入る前から専門的な口腔ケアを実施し、また入院中の口腔内トラブルや口腔ケアの困難な患者さんには定期的な口腔ケア回診を実施しています。

口腔管理センター長 として



口腔管理センター長兼歯科口腔外科部長
島 盛隆

近年口腔管理、即ち口腔ケアと多くの全身疾患との関わりが明らかになってきました。口腔管理センターでは、口腔の環境を整える事で関連する全身疾患の治療効果の向上を目的として、入院および外来患者さんと向き合っています。特にがん治療の周術期の患者さんについては、岸和田市はもとより地域の歯科医師会の先生方と連携し、口腔環境の悪化により本来のがん治療が完遂できなくなる事を予防しています。今後は口腔管理と関連する多くの疾患の患者さんについても、地域の歯科医師会との連携を深めてまいりたいと考えております。

口腔管理センターの目的は、患者さんやご家族の方々に、口腔管理と多くの関連疾患との関わりについて十分に理解していただき、口腔ケアを確実に実践していただくよう努力する事と考えております。

患者さんや地域の医療機関と当院との パイプ的な役割を担う【歯科衛生士】

外来受付や診療補助等を円滑に行い、患者さんと医師との懸け橋的な役割も担っています。口腔外科では小手術の介助、口腔管理センターでは歯科医師会と協力して口腔管理連携パスの実施や病棟口腔ケアの回診、困難症例に対してケア介入し、病棟看護師と患者さんの口腔環境についてカンファレンスを行い情報を共有しています。また、糖尿病教育入院の患者さんや地域の市民講座にて、口腔ケアの必要性など啓発活動も積極的に行っています。

歯科外来



歯科衛生士



口腔ケア回診



医療の進歩に合わせて ハイレベルで充実した研修システムを実践

医療局

当院では、豊富な急性期の症例数、救急医療の充実、大病院に比肩する医療・検査設備、充実した教育設備を整えるとともに、臨床に関する専門科を備え、地域の最終的な総合病院としての使命を果たしています。また中規模病院の特長を活かし、各診療科間の円滑な連携のもとに、チーム医療を実践しています。

◆初期研修

医師としての基本的姿勢、倫理、使命感、人類愛を養成するとともに、すべての臨床医に求められる基本的医学知識と技術を得得することを目的とした臨床研修プログラムを実践しています。研修医の定員を少なくすることにより、密度の濃い指導を目指し、選択科目としてほとんどの臨床科の選択が可能で、研修医の多様な希望に応えています。

◆後期研修

内科専門医研修基幹施設として研修医の受け入れを行っています。内科以外の診療科では、近隣病院の専門医研修連携施設として研修医の受け入れを行っています。

医療技術局

医療技術の着実な進歩に合わせた新しい医療機器・装置の投入、検査技法の更新、新薬の採用など医療現場を支えるコメディカルにも常に技能・技術の向上が求められています。それぞれの現場で、適切な研修、勉強会を随時行うことはもちろん、各種セミナーへの参加、学会認定士の取得を積極的に行いスタッフのレベルアップに努めています。

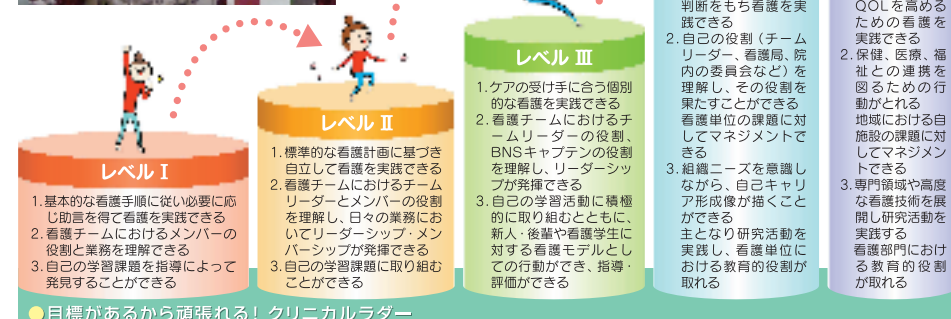
医療技術局研修

医療局研修



看護局

看護局研修



●目標があるから頑張れる！ クリニカルラダー

専門性の高い知識や能力を活かした 組織横断的なチーム医療を確立

患者さんを中心に主治医・看護職・コメディカル等の職種が協力し、専門性の高い知識や能力を活かした組織横断的なチーム医療を積極的に行っています。医師・看護師・薬剤師・リハビリテーション技士・歯科衛生士・栄養士・臨床検査技師など多職種のメンバーにより構成されたチームの中で、専門看護師・認定看護師は特定の専門分野に関する知識・技術を用いて水準の高い看護を実践し、チーム医療のコアメンバーとして各職種間の調整など中心的役割を担っています。また、リソースナースとして実践活動を通じて知識・技術をスタッフに還元し、病院組織全体の質の向上に大きく貢献しています。各職種間は業務を分担しつつ互いに連携・補完し合い、患者さんの状況に的確に対応した医療を提供しており、このような組織横断的活動の結果として、疾病の早期発見・早期回復・重症化予防など医療や生活の向上などの効果をもたらしています。



専門・認定看護師が担う 組織横断的活動

【チーム】	【ラウンド】
安全管理ラウンドチーム	安全管理ラウンド
褥瘡対策チーム	褥瘡対策ラウンド
栄養サポートチーム	NSTラウンド
緩和ケアチーム	緩和ケアラウンド
呼吸ケアチーム	呼吸ケアラウンド
感染対策チーム	ICTラウンド
口腔ケアチーム	口腔ケアラウンド
認知症ケアチーム	認知症ケアラウンド
災害対策プロジェクトチーム	
看護局 専門・認定看護師チーム	

医療局

現在、当院では約100名の医師が診療に携わっており、各医師は地域の医療拠点として恥じることはない診療レベルを保つべく日夜研鑽に励んでおります。また院内各科間の連携を密にし、より多面的な診察が行えるよう努力しています。



看護局

2025年の超少子高齢化を迎えるにあたり、看護の専門性、業務範囲の拡大など看護をめぐる環境は大きく変化しています。私たち看護職員は、あるべき医療や介護の姿を見据え、絶えず向上心を持ち、目標に向かって努力し、急性期医療の地域中核病院として役割を果たしていきたいと思っております。どのように時代が変化しても、患者さんが医療の中心であることを忘れず、常に能力開発に努め成長し、質の高い看護を提供します。そして、地域医療を支える気概と誇りを持って実践していきます。

医療技術局

薬剤部

お薬は患者さんの治療において大切な役割を担っています。病室において病棟専任薬剤師がわかりやすく説明を行い、医師及び他の医療スタッフにも迅速で正確な情報提供を行っています。特設な点滴（抗がん剤等）については専用の部屋で調製を行い、患者さんへ安全にお薬を提供しています。



中央放射線部

単純撮影検査・CTやMRI検査・X線透視装置による消化器・泌尿器系造影検査・X線透視下での呼吸器系の生検・整形外科の背椎腔検査・アイソトープ検査・PET検査などの検査および診断部門と非浸襲性のインターベンション（IVR）治療部門、さらに放射線治療があり、病院全体において多岐にわたって重責を担っています。



栄養管理部

病状に応じた栄養管理を実施し、疾患の早期治療を図っています。病院食は全て美味しく安全に調理し、旬の食材使用や行事食なども提供しています。また、栄養サポートチーム・褥瘡対策チーム等と連携を行いながら栄養管理に取り組んでいます。さらに、個別の栄養食事指導を行い、患者教室を開催してご家庭での食事療法もサポートしています。



診療技師室（聴覚技師）

聴力（純音／語音）・ティンパノメトリー・平衡機能（重心動揺／カロリック）・神経生理（ABR／ENoG）・味覚など耳鼻咽喉科領域全般の検査を行っています。また、当院で出産されたお子さまで希望される方には、新生児聴覚スクリーニング検査も行っています。



リハビリテーション部

心大血管・脳血管・廃用・運動器・呼吸器・がんのリハビリの各疾患別リハビリテーション施設基準を取得しています。また、患者さんのニーズに沿ったリハビリテーションを提供するために、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が連携して多面からのアプローチを実践しています。



中央検査部

健康診断や病気の診断・経過をみるための臨床検査には、尿検査・血液検査・細菌検査・輸液検査などの検体検査と心電図・呼吸機能・脳波・超音波などの生理検査があります。医師の指示の下、正確で迅速な検査結果を提供しています。また、各種認定の取得、研修会への参加で知識・技術の向上に努めています。



臨床工学部

生命維持管理装置（人工心肺／補助循環／人工呼吸／血液浄化など）や治療機器（心臓カテーテル治療／カテーテルアブレーション／不整脈デバイス／手術関連機器）など重要医療機器の技術管理を行っています。また、知識・技術の向上のため、各種学会認定資格を取得し治療現場の安全確保に貢献しています。



診療技師室（視能訓練士）

視力検査に始まり、眼圧・視野・眼底写真等、眼科診療に必要な様々な検査を眼科外来の中で全て行います。弱視訓練から周術期検査、ロービジョンケアまで、患者さまの思いや訴えを的確にキャッチし、医師へ受け渡せるよう、親しみやすいプロフェッショナルを目指しています。



「看護局理念」

私たち看護職員は、社会の変動と医療の進歩に伴い絶えず向上心を持ち、目標に向かって努力し、市民のニーズにあった質の高い看護を提供します。

日常での「できる力」を維持する院内デイケアルーム・ドンキー

高齢者や認知症の患者さんは、治療による制限で日常生活における様々な機能が低下する場合があります。そのため、院内デイケアルーム「ドンキー」を設け、その機能が低下しないように努めています。ここでは、ゲームやイスでの体操や作品作りなどを行い、他の患者さんと一緒に交流しながら過ごしています。日常生活での「できる力」を維持する動きかけ、退院後に普段の生活に戻ることができるよう関わっています。



院内デイケアルーム・ドンキー

深い親睦と強い繋がりを保ちながら 人とのふれあいを分かち合う

当院では、患者さんのみならず地域の方々とも積極的な交流活動を行っています。患者さんとは、音楽演奏会や大規模災害訓練などの病院行事の他にボランティア行事なども行っています。また、市民公開講座ではセミナーの他に演奏会や出張相談、患者図書コーナーの開設など様々な催しを行っています。さらに、一般の方々のみならず、当院の登録医の先生方に対しては研修会や勉強会の実施の他に、院内図書室を解放し閲覧を行っていただくなど様々な交流と情報共有を行っています。

市民公開講座

最新の医療セミナーや演奏会など盛りだくさんの催しもの！



ロビーコンサート

七夕とクリスマスにエントランスホールで開催される恒例行事！



ホスピタルストリート

院内の廊下には子どもたちからの手作り作品や新生児のご紹介も！



看護フェア

子どもからお年寄りまで一般の方を対象にした体験型の看護フェア！



大規模災害訓練



予期せぬ大災害に備えて本格的な訓練も実施！



院内図書室

職員・登録医図書室



一般用図書室



職員や登録医の先生方と来院の方を対象にした2つの図書室を開設！

機能指定

- 保険医療機関
- 労災保険指定医療機関
- 生活保護指定医療機関
- 児童福祉育成医療指定医療機関
- 戦傷病者特別援護法指定病院
- 特定疾患治療研究事業指定病院
- 国民健康保険療養取扱機関
- 小児慢性特定疾患治療研究事業指定病院
- 結核予防法指定医療機関
- 母子保健法指定医療機関
- 身体障害者福祉法指定医療機関
- 精神保健法指定医療機関
- 児童福祉法助産施設
- 母体保護法指定病院
- 原子爆弾被爆者一般疾病指定医療機関
- 救急告示医療機関 (H2.1.26 指定)
- 臨床研修病院 (H5.4.1 指定)
- 地域がん診療連携拠点病院 (H14.12.9 指定)
- 地域医療支援病院 (H22.11.19 承認)

旧市立岸和田市民病院



現在の市立岸和田市民病院



1936年	11月	春木川町、山直町、南掃守村、八木村、土生郷村の2町3村で病院を建設。
1941年	3月	岸和田市ほか3ヶ町村の組合病院として「公立大宮病院」の名称で設置。
1942年	1月 4月	大宮病院伝染病院併設。 岸和田市ほか3ヶ町村合併により岸和田市立病院と改称。
1956年	3月 7月	病院敷地内に結核病棟を新築。 結核病棟100床に対し完全看護制度を採用。
1961年	8月 10月	「市立岸和田市民病院」と名称を変更。 病院本館新設。
1962年	2月 8月	総合病院の指定を申請。 基準看護を実施。
1963年	3月	伝染病棟を新築。
1990年	1月	救急告示医療機関として指定を受ける。
1993年	4月	臨床研修病院として指定を受ける。
1994年	10月	新看護棟に係る届出2:1看護実施。
1996年	5月	新病院開院。一般病床350床、伝染病棟10床、計360床。 (1999年3月 伝染病棟の廃止)
1998年	1月 4月	日本医療機能評価機構認定。 日本医療福祉建築賞受賞。
2002年	4月 5月 9月 12月	6階西病棟開設。 中央手術室2室増室(計8室)及び日帰り手術センター開設。 救急センター、画像診断センター、地域医療センター及び循環器科開設。 地域がん診療拠点病院指定(国指定)。
2003年	5月	日本医療機能評価機構認定更新。
2006年	5月	PET-CT稼動。外来化学療法センター開設。
2007年	4月	病床数が一般400床となる。透析センター開設。
2008年	2月 7月	日本医療機能評価機構認定更新Ver.5。 地域がん診療連携拠点病院に指定される(国指定)。 院内保育所「すくすくルーム」開設。
2009年	5月	7:1看護実施。
2010年	4月 11月	地域がん診療連携拠点病院(国指定)の指定更新。 地域医療支援病院指定。
2011年	5・6月	診療科の再編。標榜科29科となる。
2012年	7月 10月	緩和ケア病棟開設。 緩和ケア内科、放射線治療科、消化器外科開設。32科となる。
2013年	1月 10月	日本医療機能評価機構認定更新Ver.6。 婦人科診療を再開。
2014年	5月	産科診療を再開。
2016年	3月 4月	院内保育所「すくすくルーム」新築移転。 呼吸器センター開設
2017年	4月 5月	口腔管理センター開設 地域医療センターを患者支援センターに名称変更 IMRTを稼動